

明日から楽しい夏休みですね。皆さんは夏休みをどのように過ごす予定ですか。この夏休みが皆さんにとって有意義で幸せな日々となることを祈っています。そこで、今日は「幸せ」ってなんだろう？というテーマでお話をしてみたいと思います。

このテーマを考えるために、「運動靴と赤い金魚」という映画を紹介します。この映画はイランを舞台に貧しい家庭で暮らす少年アリとその妹ザーラが登場します。

ある日、アリはザーラの運動靴を修理してもらった帰りに母から頼まれた買い物をします。その際、八百屋の店先に運動靴を置きっぱなしにしていたのですが、間違えて廃品回収のおじさんに持っていかれてしまいます。新たに靴を買うお金もなく両親に知られるのを恐れたアリは、運動靴を失くしたことを両親に告げぬようザーラに頼みます。ザーラは靴を1足しか持っていなかったため、その兄妹はアリの運動靴を2人で共有しなければならなくなりました。朝はザーラが運動靴を履いて登校し、昼はアリがサンダルで学校の近くまで行き、下校途中のザーラと互いの靴を交換して学校へ行く毎日でした。

しばらくして、ザーラは学校で自分の靴を履いた下級生の女の子を見つけます。ザーラは女の子の後をつけて家をつきとめます。その家は、自分たちが住んでいる家よりももっと貧しそうでした。その後、ザーラはアリをつれて靴を返してもらおうとその家を見張っていると、おじいさんとその女の子が出てきます。その時、女の子のおじいさんの目が不自由であることを兄妹が知ります。家の陰から見ていた兄妹は、自分たちよりももっと貧しい人にその靴がいったんだからいいや、とでもいうように、さも当たり前のように納得し、一言もとがめないで、すごすごと引き返していきます。この場面は一言の台詞もないのですが、実に印象的なシーンです。

そのうち、アリはマラソン大会があることを学校の貼り紙で知ります。そのマラソン大会の3等の商品が運動靴でした。アリはマラソン大会の選手になっていなかったのですが、先生に頼み込んでテストを受け、なんとか選手になりました。そして、妹のためにマラソン大会に参加し、3等になるため息を切らし、苦しみながら走り続け、トップ集団に食らいつきます。最後は5人での競り合いとなり、5人がなだれ込むようにゴールします。アリは先生に3等になったか確認しますが、実は1等でゴールしていました。先生方は大喜びです。1等の商品は、なんとカスピ海への観光旅行でした。しかし、欲しかった運動靴が手に入らず、アリはしょんぼりと家に帰ります。家ではザーラが無言で出迎えます。その後、共同住宅の中庭にある小さな噴水が写ります。その中では赤い金魚を飼っていて、日頃から兄妹が餌をあげていました。その噴水の中に、アリが靴を脱いでマラソンで豆が破れて傷だらけになった両足を浸けると、金魚がその傷をいたわるように寄ってくる、というシーンで映画は終わります。

さて、映画の一部だけでしたが、皆さんはこのあらすじを聞いてどのように感じましたか。ここにいるほとんどの人は、1等を取り、カスピ海の観光旅行を貰った方が幸せだと感じるでしょう。それは、皆さんの中には、今日履く靴がなくて困っている人はいないからです。私たちが暮らす日本は物質的経済的に豊かです。確かに、豊かであることは貧しいよりもいいことです。便利であることも不便であるよりはいいでしょう。私自身もその豊かさ、便利さにどっぷり浸かって暮らしています。しかし、この映画に出てくるアリやザーラのような心の豊かさが今の日本人のどれだけの人にあるだろうか、と思うと果たしてどちらが幸せなのだろうと考えて

しまいます。幸せの尺度は人それぞれ違います。人生の幸せとは、物質的経済的な豊かさではなく、それを感じる人の心の持ちようによって強くも弱くもなるのではないのでしょうか。幸せに対する感受性を磨けば磨くほど、身の周りの些細なことでも幸せを感じられ、心豊かになれると思います。不幸を見つけ出す生活より、幸せを見つけ出す日々を送りたいものですね。

明日からの夏休み、皆さんは感受性を磨いて日常生活にたくさんの幸せを見つけ出し、より豊かな心を育ててください。また、2学期に幸せそうな笑顔の皆さんと会えることを楽しみにしています。